

JAITI²⁷

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修協会の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの略文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基礎とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる権利」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向ける体を持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

事務所 財団法人 日本農業研修協会
〒386-0502 長野県小県郡式石村沖436
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583
東京連絡所 〒113-0031 東京都文京区根津1-19-3 (小林第)
TEL 03-3828-9265 FAX 03-3828-9262

ジャイチネパールの強化構想



学校運営調整委員会やその他の保護者との話し合い

今日のジャイチ

現地の実行部隊であるジャイチネパールの事業と組織を強化し、ジャイチの共同事業体として、より対等で緊密なパートナーシップを確立していくことを目指します。

現在、ジャイチネパールはジャイチ「日本側」の現地事務所（支店）であり、方針や予算等に関わる重要なことは日本側の許可・承認・同意を得て行うことが原則です。

しかし現地に根ざしたよい事業を行うためには、日本からの指令待ちの従属的組織ではなく、自ら企画立案し将来に向けてジャイチに様々な提案をし、ジャイチとジャイチネパールは協力して事業を進めるような、パートナー的関係であることが望ましいと考えます。

育英基金の設立とご寄付のお願い

バシファント学校の運営経費を学校運営調整委員会（保護者を中心に先生が一人事務長として、校長先生が顧問として参加し、15人ほどで構成している委員会）が授業料の徴収によってすべて賄うのは、将来的にも無理だと思われまので、運営費の半額程度はかなり長期に亘ってジャイチが支援し続ける必要があります。現在のバシファント学校の年間経費は約300万円であり、この半額をネパールの定期口座の年率約4%の利子によって賄うとすると、3750万円（約4000万円）の基金が必要となります。育英基金への寄付とご明記の上、ご支援をお願い申し上げます。

(1) 事業の三本柱化と相互連携

農業振興事業と基礎教育事業をさらに強化するとともに、職業教育事業（特にチベット伝統医療）を加えて、今後当面の三本柱とします。また、カカニ農場をバシファント学校の生徒及び周辺住民の訓練の場として活かすなど、事業間の連携を図ります。

(2) 収入源の多様化

ジャイチ（日本側）に10%程度ではなく、既に始めた授業料の徴収を拡充するとともに、収益事業、助成団体や国際機関からの助成金の獲得、借入などの方法の開拓を徐々に試みます。

(3) 計画立案の質の向上と自律化

ジャイチ（日本側）と緊

密に連携しつつ、ジャイチネパール自ら新計画を立案し、資金を調達し、実行することを徐々に試みます。

(4) 学校と農場の委員方針の見直しと事業の質の向上

学校の委員方針を見直し、教育の質の向上を優先させた新たな今後の方針を策定、実行します。農場の委員方針も手直しし、経営や技術の改善を図ります。

(5) スタッフの専門化

事業内容に適したスタッフを配置し、業務分担を明確にします。

(6) NGOの設立と登録

今までジャイチネパールは、実態は非営利のNGOですが、便宜上、会社としてネパール政府に登録してありました。今後は実態に合わせて、NGOとして新



チベット伝統医療のワークショップ。政府公認のチベット伝統医療師が講師を務めるため、ネパールを代表する伝統医が集まって、カリキュラムを策定した。ジャイチも支援した。

(7) 情報提供の充実化

ネパールの実情、事業の実情について、より率直な情報発信をジャイチとそのメンバーに対して行うとともに、組織としての透明度を改善します。

(8) 地域住民との協力関係の強化

一つの農場や学校に対する協力だけでなく、地域全体を視野にいれ、地域住民や関連機関との協力関係を強化していきます。

(9) 他の開発機関との協力関係の強化

国際NGOや国際機関、ネパール政府との協力関係を強化します。

(鎌田)

ジャイチ決算報告

一般からの募
金収入は、予算
の半分ほど。助
成金は予算の五
分の一、現地視
察研修調査（ス
タディーツアー）
収入は予算の三
分の二に留まり
ました。正味財
産は初めて百五
十三万円ほど減
少してしまいま
した。

寄生虫駆除と健康診断、
家族計画の啓発のための授
業を春木宏介先生に行って
いただきましたが、これは
大学の研究費をやりくりし
てなんとか実現してもらい
ました。
募金収入は、一九九一年

から今まで年平均九百万円
ほど得ていたので、減少し
てしまっています。

助成金は、国際ボランティア
アワード（百九十九万六千円）
と国際農林業協力・交流協
会のみでした。国際ボラン
ティア貯金は、バシフアン
ト学校に対して一九九二年
から十二年継続して助成し
てくれましたが、とうとう
これで打ち切りです。

バシフアント学校とカカ
ニ農場が抱えている課題が
あまりにも多いので、当面、
全く新しい新規事業を展開
できる余力がジャイチには
あまりありません。以前か
らの事業の継続だと、助成
金を獲得することは大変難
しいです。その面でも一般
からの寄付が、ジャイチに

とつてもっとも重要な収入
源であります。引き続き、
多くの皆様に支援をお願い

JAITTI根津グループの活動

JAITTI東京連絡所の
近くにある根津神社は、つ
つじ山に咲くつつじの花が
とても見事です。

たまたまNHKでこのつ
つじ祭のことを紹介したの
で、都内は勿論、近県から
も、見物客が大勢集まるよ
うになりました。

神社の参拝路にある東京
連絡所のガレージで、この
お客様を対象に、ネパール
とJAITTIの活動を知っ
ていただくとうと、バザーを

する必要がります。理事・
監事及び決算報告は三面に
掲載しています。（鎌田）

始めました。毎年四月十五
日から五月五日の期間です。
ネパールのカトマンДУ
やポカラから民芸品を仕入
れ、即席の小さなお店に飾っ
た様は物珍しく、評判で、
今年で六年目になりました。

期間中大勢のボランティア
の方々が売り子さんになっ
てくれたり、横浜市青葉区
の花屋さんが、沢山の可愛
い花の苗をバザー用にと届
けて下さいます。この売上
金はバシフアント学校の支
援金になっています。

又、バシフアント学校の
全校生徒「三百人」にはダ
サイン祭（ネパール最大の
祭）のプレゼントとして、
毎年衣類を用意します。
昨年はジャージーのトレー
ナー（足はある会社からの
寄付）を九月に持参しまし
た。全量百二十kgを、重量
オーバーを気にしながら荷
作りをし、四人でネパール
まで運び込みました。残っ
た荷物は、ネパールへ観光・
トレッキングに行くついで
にと、いう方々に運んでい

いただきました。
次に、新年
生には、手作り
の毛糸の正チャ
ン帽を被せてあ
げます。この帽
子は残り毛糸で
編んだとは思え
ない程、形も色
合いも素敵で、
「ウァー可愛い」
と思わず叫んで
しまいました。
先日も神馬区の
支援グループの
方から三十個届
きました。

又、バザーの
関のを持って買いに来
てくださるご近所の皆様、
お友達、押入れの中に残っ
ていたと毛糸の数々の寄
付と、暇を見て編んであげ
ましょうとおっしゃってくだ
さる方々、布を集めて学校
の肩掛けカバンを作ってく
ださる方々……

皆様の愛と支えの中で、
何とか毎年続けられました。
年々血生臭い地球人になっ
て行く中でも、新しい生命
が生まれていきます。貧し
い中でも元気に育って行く
ネパールの子供達へどうぞ、
日本の豊かさを少しずつ私
達に運ばせてください。

室賀前理事長に感謝状



一九九四年七月から二〇〇
二年三月まで七年八ヶ月、ジャ
イチの理事長として指導・監
督の重責を務めていただいた
室賀弥三郎氏（九十二歳）に
対して、六月七日、ジャイチ
より感謝状と木の楠立が贈ら
れました。

室賀様は今でも農政のご
意見番として、欠かせない存
在だと聞きます。末永くご健
在であられますよう、お祈り
申し上げます。

バザー用品（ネパールか
ら日本）、デザイン祭の衣類
（日本からネパール）の運
搬のお手伝いをしてくださ
ると大変助かります。ご協
力願う方お知らせ下さい。
連絡先

お願い

国際協力フェスティバル
2004
十月一日（土）・三日（日）
東京都立日比谷公園
ジャイチも出展します。
お出かけ下さい。

○三十三八二八一九二六三三
JAITTI東京連絡所
鎌田はなよ



筆者と根津バザー

教育事業評価に携わって

玉木 衛

1、事業評価の現在

海外援助が盛んに行われ、
 沢山の日本のNGOが海外
 で活動している事情の下で
 も、日本では今もってNGO
 の事業評価が等閑視され
 ている。その主な理由には、
 「良いことをやっているの
 に「ケチ」をつけられるい
 われはない」とか「ボラン
 ティアでやっているのだから
 」と語る感情論から、「評
 価はめんどう」「行うだけ
 の能力がない」と言う現実
 論まである。さらに、個人
 的組織の性格が強い日本の
 NGOの特徴もそのような
 風潮に拍車を掛けている。

しかし、事業評価は人間
 で言えば健康診断である。
 肉体面だけでなく、精神状
 態や生活環境まで含めた総



▲静やかな素のしゃくなげの花をいたでいた。左から、
 玉木さん、小林理事長、菊池副理事長、ブルンさん

合的診断に他ならない。病
 気であれば、安静加療が必
 要になる。

薬を飲みながら無理をし
 ていては病気を悪化させる。
 体に良いからと言って栄養
 の取り過ぎも良くない。夜
 更かしや暴飲暴食、過剰な
 ストレスも病気を招いてし
 まう。適切な時期に、事業
 評価を行う必要性はそこに
 ある。

事業評価の目的は次のよ
 うにまとめられる。地域社
 会への影響やNGOの運営
 のあり方を含め、事業がど
 のような状態にあるのか調
 べる。さらに、事業が
 より大きな成果をあげるに
 はどうすべきかを検討する
 ことである。健康診断を行
 い、もしも病気であるなら
 は、その原因を取り除くこ
 とが、そうでなければ、病
 気にならないように心身状
 態や生活環境を換つことが、
 求められる。同様に、健全
 な組織運営や事業展開には、
 適切な事業評価の導入が必
 要である。

2、評価の経過

今回のジャイチの教育事
 業評価に当っては、四つの



▲家庭訪問。この家庭の子どもは去年SLCに合格し、今はヘタ
 ウダの大学に通っている。もう一人の男の子(写真中央)はワシヤ
 ント学校の5年生。収入は農業収入のみで、一番もうかるのはジャ
 ガイモ。その他に大根、カリフラワー、キャベツ、青豆をヘタウダや
 その他のクワイ平野の町で売っているそうだが、カーブはチェリー

視点から評価の方法や範囲
 と程度を決め、それに基づ
 いて具体的なやり方を設定
 した。その四つとは、まず
 「教育」の持つ社会的特性
 である。知識技術の習得に
 留まらず、教育の持つ社会
 資源の再分配機能に注目し
 たこと。次に、ジャイチの
 ポリシー(考え方と実践方
 法)に内在する、対象への

スタンスと
 行動様式に
 注目し、ジャ
 イチの特性
 を充分考慮
 した評価に
 すること。
 さらに、社
 会事情を国
 家レベルと
 地域社会レ
 ベルから分
 析し、その
 独自性を考

慮し評価に反映させること。
 四つめは、評価目的と方法
 の問題である。事業の個別
 の問題構造に留まらず、ジャ
 イチの活動や事業の廃止を
 含め、総合的評価とすること
 になった。こうした方針
 に基づいて、今回の教育事
 業評価が行われた。
 評価結果は概ね次のよう
 な結論に至った。教育事業

全体を継続する必要性があ
 ること。さらに、この教育
 事業が目標としている、質
 の高い教育や社会への貢献
 によりいつそう留意する必
 要性があること。この事業
 によって生じたインパクト
 が、地域社会にマイナスイ
 にならないよう努めること。
 地域社会への学校運営体制
 の移譲(ハンドオーバー)
 については基本的部分から
 改善が必要であること。

事業評価は、上手く利用
 すれば宝の箱となる。自分
 達だけでなく、他のNGO
 に好影響を与える材料と
 もなる。協力者への義務と
 言えよう。
3、NGO活動の将来
 余談になるが、ジャイチ
 の事業評価を行っていた時、
 ある学術団体(学会)から
 機関誌掲載論文の審査を依
 頼された。その論文は、第

二次世界大戦以後の開発論
 の考え方や流れを丁寧に押
 さえ、現在の開発論につい
 て理論的に言及するととも
 に、実際の活動例から問題
 点を指摘するものであった。
 その試みと内容は、問題意
 識や方法論において従来の
 日本での研究レベルとは全
 く異なっていた。聞く所
 によると、三十代前半の日本
 人研究者の論文ということ
 であった。実際、日本人の
 開発研究もここまで来たか
 と、内心感しくなった。

こうした研究レベルにあ
 る人達が、気軽に個々のNGO
 の活動に参加できる環
 境が整うと、日本のNGO
 の風土も様変わりするよう
 に思う。その意味でも、事
 業評価がNGOの発展や開
 発研究の一助になれば良い
 と思っている。
 (神奈川県横浜市長)



肩掛けカバン報告

ハシヤント学校小生(一
 年から五年)の通学カバン
 として大切に使っています。
 布・ボタンを寄付して下さっ
 た方、カバンを縫って下さっ
 た方、ありがとうございました。
 現在も続いています。



進む 学校改革

グルンさんの奮闘

ジャイチへの加入

ご存知のようにバシファント学校の昨年の高校卒業試験（SLC）の成績は、全くの期待はずれに終わりました。それは学校が抱える諸問題の、一つの現われであったのです。ジャイチには今まで、松浦さんや土屋さんのようなしっかりとした農業専門家はいても、教育の専門家が現場で指揮を取るといふことは、ついぞありませんでした。

そんなわけで、ピム・ラル・グルンさんの卓抜した腕を見込んで、二〇〇四年一月から、ジャイチネパールでチーフ・アドバイザーとして学校改革の指揮を取ってもらうことになったのです。

学校の現状

SLCの結果発表の後、二〇〇三年八月には概況把握調査、二〇〇四年二月には評価調査、四月には教師の能力検査を行いました。

調査結果はすべて、学校の運営と質の改善のために、努力を傾注しなければならぬことを示しています。教育の分野においては、その質の本質的な改善を短期間で行うことが出来ません。両親は子どもたちをより自覚的に支えなければなりませんし、生徒は学びを習慣化しなければなりませんし、

教師は教育の方法論と中味について技術的支援を受けなければなりません。なによりも教師が活発で献身的である必要があります。では、ジャイチの学校改革はどのように具体的に進められつつあるのでしょうか。

改革の実践

彼がジャイチネパールに入ってから、ジャイチの教育部門の改善と改革、そして新たな事業展開が図られつつあります。バシファント学校の将来ビジョンや、カカニで進められている新学校づくりの構想計画も文書化されました。

教師は教授法についての技術的指導を受け、年間授業計画を作成し、月間報告をジャイチネパールに提出するようになった。近々、能力検査の結果に基づいて、教師の研修が朝と晩に行われる予定です。教師の質を判定する試験は今後も毎年



▲家庭訪問。子どもは7人（息子2人、娘5人）。次女はバシファント学校で昨年SLC試験に落第。長男と次男、三女（写真主）もバシファント学校に通っている。お父さんはバスの運転手で、お母さんが子どもたちに手伝ってもらいながら、農業をやっている。カーストはタマン族。

定期的に行われることになっています。各教師のクラス担当、あるいは科目担当としての役割と責任についても、明確になりました。

教師の勤務状況は、生徒と保護者によって常に異なるとは抜き打ち的にチェックされ、直接ジャイチネパールに報告されます。学校のよりよい運営のための規則や予定表は文書化され、すべての生徒や保護者に配られました。

週休二日制は四月から週休一日制（土曜日が休み）第一週は土日が休み）となりました。バシファント学校は立地条件の問題から、生徒の通学時間がとても長

く、なかなか宿題をやるのができないため、特に十一年生に対して、二〇〇三年十一月から学校の余った教員用宿舎などを活用して学校内に泊まれるようにしました。生徒自身が食事や宿泊を自分たちでやりくりしています。保護者が中心メンバーである学校運営調整委員会は、メンバーが刷新され、より活発に学校の運営管理に携わるようになりました。

管理志向が強まったなどと誤解されないように、お願いしたいと思っています。日本人は目が失ってしまつた牧歌的世界をネパールに投影して、眼鏡で見えてし

まう傾向がありますが、きちんとすべきところはきちんとするとう当たり前のことをしているに過ぎません。実際、このような改善、

改革の試みは生徒や保護者、そして教師からも歓迎されているようです。今年四月の新生入受け入れの際には、一年生から九年生までいつもより多い百三人もの入学希望者があり、学年ごとの到達度試験の結果、七十六人が入学しました。現在の在校生は三百三十四人（男子百九十三人、女子百四十一人）です。

改革は続きます。（前田）

グルンさんの紹介

ピム・ラル・グルンさんは、二六年間、教育畑を歩んでこられました。校長先生として地方に赴任した後、教育者に入り、学校の指導、監督にあたりました。そして各部の教育長を歴任した後、教育者のジャイント・セクレタリー（事務次官補）となり、政策決定の中核を担い、さまざまな国際援助機関と仕事をしてお評議されています。

ネパール政府からは功績をたたえられ、今までに三回、勲章を受けています。趣味は踊りと歌で、ネパールの伝統的な踊り（ジャウレ・ダンス）の金メダリスト（一見の価値あり）でもあります。

自宅は、ジャイチのカトマンズ事務所近くにあり、ムスタン郡トククチェ村の出身、五十四歳。

カカニ農場の近況

三月にカカニ農場に滞在しました。農場の近況をお知らせします。

◆観光農園へのとりくみ

日本ではイチゴ、ブドウ、サクランボ、リンゴ、ミカンなどの観光農園が盛況です。ネパールに観光農園はありませんが、経済力、生活レベルの向上に伴って動きが出てくるでしょう。

カカニ農場はカトマンドゥから25km、車で一時間ほどで、ランタンヒマラヤの登山口であるトリスリへ向う道路ぞいにあり、観光農園の適地です。近くにはカトマンドゥ周辺でヒマラヤを眺める「朝日のナガルコット、夕日のカカニ」といわ



▶日本の車の販売業者により農場内に建設されたイチゴの集出荷調整施設「1階部分」2階は採果販売農園の集荷する予定で、とりあえず柱と屋根だけかけてある。

れるカカニの丘もあり、ミニトレッキングと組み合わせて、観光客を呼べる条件が揃っています。

観光農園の目玉はイチゴですが、収穫期間の延長のほかキウイフルーツ、スイートコーンなどが考えられます。そのためには食堂、トイレ、駐車場などの整備が必要ですが、現地でも気運が盛りあがっており、地域おこしにつなげたいと考えています。

◆イチゴジャムの色問題

三年前ネパールへ渡り始めた時、ジャムの色が悪いという問題提起がありました。ジャムの色は販売上極めて重要なことです。

いろいろ検討の結果

①日本では高圧蒸気釜で短時間の過熱なのにネパールでは薪で八時間ぐらいかかるため、色あがりが悪い。
②鉄分が多いと色が悪くなる。日本では鉄分を考慮して工場立地している。ネパールの上壤は鉄分が極めて多く、イチゴ・水に鉄分が多く含まれている。
③砂糖は上白糖がグラニュー糖が良いが、ネパールでは入手がむずかしい。

④日本でも三ヶ月ぐらい経つと変色してくる。賞味期限設定は三ヶ月ぐらい。ネパールでは一年以上おくこ

とも多い。

⑤日本では加工専門品種（主に中国産）を使ってもともと色が良い、などで製造工程での解決はむずかしいとの結論になりました。

結論、日本でも以前は使った食用色素赤色二〇一（食紅）による着色を検討。イチゴ50kgに1g程度の添加で良いとの結論で解決の方向です。

◆イチゴの防寒試験

ポリマルチ栽培による増収効果の高いことは前に書きました。しかし地上部は

露地状態で一、二月の霜のおりる寒さの時期には厳しさがありません。そこで夜間の地上部の温度低下を防ぐため、トンネル被覆試験を実施しました。

資材はトウモロコシのんぶんが原料で、最終的には土に還る自然循環型資材のラクトロンを使用しました。30%程度の増収効果を期待しましたが、15%程度の増収効果でした。

日本ですとハウスの中でトンネル被覆、しかも暖房機による加温ができますか

ら温度管理は思い通りですが、ネパールではハウス資材の入手の可能性がなく、トンネルだけではむずかしいようです。

◆今後は

①トンネル被覆を二枚重ねにして保温性を高める。
②厚い被覆資材を使う。
③スズ風が入らないよう注意する。
などに配慮して検討します。

◆緑肥作物の導入

イチゴの連作障害ですが、農場の面積も限られており、堆肥の多施用、輪作などで対応してまいりました。長野県の結石哲男様から「緑肥作物を試験してほしい」と支援いただき、三月に日本から持参したヘアリーベッチ（マメ科）とソルガム（イネ科）それにネパールの緑肥作物ダイチャ（マメ科）をまきつけました。

ダイチャは日本の何なのかは当面不明です。秋に畑へスキ込み土壌改良、来年九月にイチゴを植えるまで休耕します。結果が出るのは三年ぐらい先です。

◆イチゴ苗の大量増殖

ウイルスフリー苗（無病



▶3月、イチゴを片付け緑肥作物の種子まき。6、7月の収穫時にどうなるか確認する。

苗）は品質、収量とも優れます。しかし苗は高価で栽培に使うことは経済的に無理です。そこでそれを母株としてランナー（子苗）の発生量をいかに増やすかが重要です。

五〜八度の冷蔵庫で低温処理するとランナーの発生量が増加するといわれており、二月ははじめより三十日間苗を振りあげ低温処理しました。比較のため無処理区も設定してあります。

結果が良ければ来年から母株は低温処理して大量増殖につとめ、一日も早く農家の末端まで配布につとめます。

（農業指導員 土屋典也）



▲マルチ、トンネル、ネットもかけた。冬用のいちご圃場で試験・検討が続く。

▼ジャイチ

事務局だより

ジャイチネパール▼

- 1月 機関誌25号発表
国際ボランティア財団申請委員会出席
鎌田理事事務局長、総合指導でネパール出張(3月まで)
依田直南部中学校生徒事務所訪問
- 2月 五木尚、教育評価事業でパンファント学校に派遣
菊池健介副理事長、総合指導でネパール出張
小林理事、ネパール訪問
- 3月 土屋興王、カカニ実験研修農場の農業指導
春木正介、パンファント学校での寄生虫駆除と家畜計画の指導
理事・評議員会(2004年度事業計画・予算案の審議と承認)
- 4月 機関誌27号の企画会議
国際農林業協力協会へ事業完了届提出
法務局へ理事就任登記
長野県知事へ理事・監事再就任
- 5月 決算監査
外務省NGO相談員申請書提出
アースの会(牧久)が武石事務所を訪問
理事・評議員会(2003年度事業・決算の報告と承認)
- 6月 資本金変更登記
長野県へ事業報告・資金変更届け・寄附行為変更申請
JAIT15周年の歩み 企画会議
工藤れい子評議員 上松中学校講演
国際農林業協力・交流協会へ専門家派遣
支援事業計画書提出
鎌田事務局長、総合指導でネパール出張
土屋興王副理事長、カカニ実験研修農場指導
- バザーを有難うございます。
世田谷フリーマーケット(東京世田谷区)
桜津バザー(東京練文区)

- 1日 ビム・ラル・グルンがジャイチネパールのチーフアドバイザーに就任
新南五さんの寄付による新学校がカカニ農場につくりに決定
吉本克己さん、パンファント学校でスキナー・ドキュメンテーションの紹介
チベット伝統舞の第4回ネパール全国会議と第1回国際会議
ゴカワから Children Nepal (NGO)の30人のスタッフがカカニ農場を見学
- 2月 教育評価のため、事務局およびパンファント学校で調査と話し合い
2月10日、カカニ農場の 野の森林管理事務所がマオイストによって閉鎖
FAOのネパール代表館見学、カカニ農場を視察
- 3月 新学校の設計と着工
土屋農産専門家による農場指導、緑肥の導入
チベット伝統舞の新しい教育コースのカリキュラムづくりワークショップ
春木医師がパンファント学校で寄生虫駆除と健康診断、家畜計画の授業
JICAシニアボランティアの吉島氏が、日本人を連れて試験的なイチゴ作り
有志の出資金によって新農場をカカニに購入
- 4月 4月15日はパンファント学校12年目の記念の日、日本を紹介するフィルムを上映
パンファント学校の理科実験室・図書室・保健室の建物完成
パンファント学校の産産調整委員会が新しい代表とメンバーに
- 5月 パンファント学校で日本からの古着のパズー、売上げ8000ルピーは、学習旅行の費用に
伝統舞のための予算を教育者が承認(さらに上のレベルとの折衝が必要)
パンファント学校のナム・クマール・ババ先生が、コヤリ・ルンバ先生と結婚
5月11日から20日までマオイストや5政党によるゼネスト
タメルの Pilgrim Book House がパンファント学校の 図書室に本の寄付
イチゴの新しい苗作り作業
- 6月 6月7日からマオイストによる教育機関の無期限ストライキのため、休校

外務省の事業として、「NGO相談員」という業務をジャイチで引受けることになりました。期間
は七月十二日
から来年三月
までです。

役割としては、「国際協力NGOの設立、NGO活動への参加、組織の運営、

のNGO団体が相談員となり、適切にアドバイス。又、国際協力に対する理解促進

「NGO相談員」に委嘱

担当者菊池

です。

というもの

ビスも実施

というもの

というもの

というもの

管理、開発途上国に関する情報、NGO相互の情報ニーズに対し、経験豊かな日本

のため、NGO相談員が地方自治体や教育機関などと連携して行う出張相談サービスも実施

第十五回 ネパールの農場と学校訪問の旅 参加者募集

◆日程 十一月六日(土)

一十六日(火) 十泊十一日

旅程 日本各空港(成田、関空)からパンコク(一泊、翌日カトマンズ)着(ツアラーの担当者は成田発のみ)

午後市内観光(パンファント学校・チトワン国立公園・イルンビニー・ボカラ(ミニトレッジキング)・カトマンドゥ(マウンテンフライト)・カカニ実験研修農場と移動します。

◆費用 二十七万円。全行程中の移動手段(航空機はエコノミークラス)、宿泊費、食費代(飲み物は除く)を含む。日本国内の空港往復の交通費と、海外旅行傷害保険は含まれていません。

◆参加条件 一・二時間散

歩が可能の方、海外旅行傷害保険加入。

◆最小催行人員 十二名

◆申込方法 電話・ファックスにてお問合せ下さい。

後日、申込書と詳しい旅行条件を記載した書面をお送り致します。

◆申込期限 八月二十七日(金) 定員になり次第締切。

◆農場と学校訪問についてのお問合せ、企画、卸ジャイチ 事務局 豊田

◆お問合せ・お申込み主催 株式旅行社

国土交通大臣登録旅行業 第一三三二号 日本旅行業協会会員

〒一六五〇〇二六 東京都中野区新井二二〇(四)

IFOビル六F

TEL 〇三三三二二八五二 〇三三三二二八五三 〇三三三二二八五五 〇三三三二二八五七 〇三三三二二八五九

物故者のお知らせ

支援者の方で、当方で把握している物故者を掲載致します。ご冥福をお祈りしますと共に、感謝致します。

◆物故者
菅川義二様 十五年四月

◆物故者
鈴木治子様 十五年十二月

◆物故者
鈴木治子様 十五年十二月

編集後記

いまままで積み重ねてきた支援活動が、ネパールで理解され、広がりを見せています。応援者がひとつ増えたような気がします。

このようなジャイチの道徳的状況を支援者の皆様により詳しくお伝えするため、読みやすく高品質な紙面を心がけ、刷新いたしました。

また、支援者の輪を広げ、深めるために編集理事が中心となってウェブサイトの立ち上げを企画しています。

デザインや更新作業など担当のジャイチスタッフになっていただけたら、ご連絡ください。(武石村 崇)

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時にも心に留めて下さり、感謝申し上げます。運営されている財源その他について説明を致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金・育英基金 2. ジャイチ維持費 3. ジャイチ事業費

郵便振替 〇〇510-4-65434
銀行振込 八十二銀行丸平支店(普)420677
口座名 財団法人日本農業研修協会の力
住所 〒386-0502 長野県小県郡武石村沖456
電話 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583